

中学生の演奏と可能性に感動しました！

夏の中学生連の大会が中止になり、連盟や協会が中学生のために代替大会を開催してくださいました。吹奏楽部はどうなるかと気に掛けていましたが、指導者と保護者が大変ご尽力くださり、生徒たちのために演奏会が開催されました。昨日、私も一観客として足を運びました。

家族や関係者を中心とした観客の限定、体温測定と参加者の身元の明確化、ソーシャルディスタンスをとった座席指定など、感染症対策を十分考慮した演奏会でした。コロナ禍でも何とか部活動の有終の美を飾らせてやりたいという指導者と保護者の熱い気もちが伝わってきました。

コロナの影響で練習時間不足は否めません。しかし、生徒たちはよく頑張りました。披露するに十分な曲に仕上げ、堂々と演奏をしました。休校中の一人一人の努力や、部活動やクラブが再開した後のモチベーションの高さが、演奏会の大成功につながったことでしょう。

音楽には疎い私にも、十分楽しめる素敵な演奏会でした。特に、『サザエさん・ア・ラ・カルト』は、『サザエさん』を見たことがある人ならだれでも楽しめる曲で、私も思わず顔がほころんでしまいました。地域のイベントで披露したら大喜び間違いなしだと思っただぐらいです。

楽しんだだけではありません。私は、大きな感動も感じました。

第二部の最初に一年生の紹介がありました。指導者のK氏に先導されて舞台上に登場してきた一年生を見るとき、二年前を思い出しました。そのときは今の三年生たちが同じように登場して紹介されたのです。

その時の生徒たちが、今や立派な最上級生かつ演奏者となって、観客を音楽で楽しませることができるようになっています。単に演奏を聴いていて楽しかっただけでなく、生徒たちの成長を目の当たりにすることができ、私は大きな感動を覚えました。

中学生の可能性はこういうところにあると私は思います。やればやっただけ伸びる時期は貴重です。大切にしたいものです。

